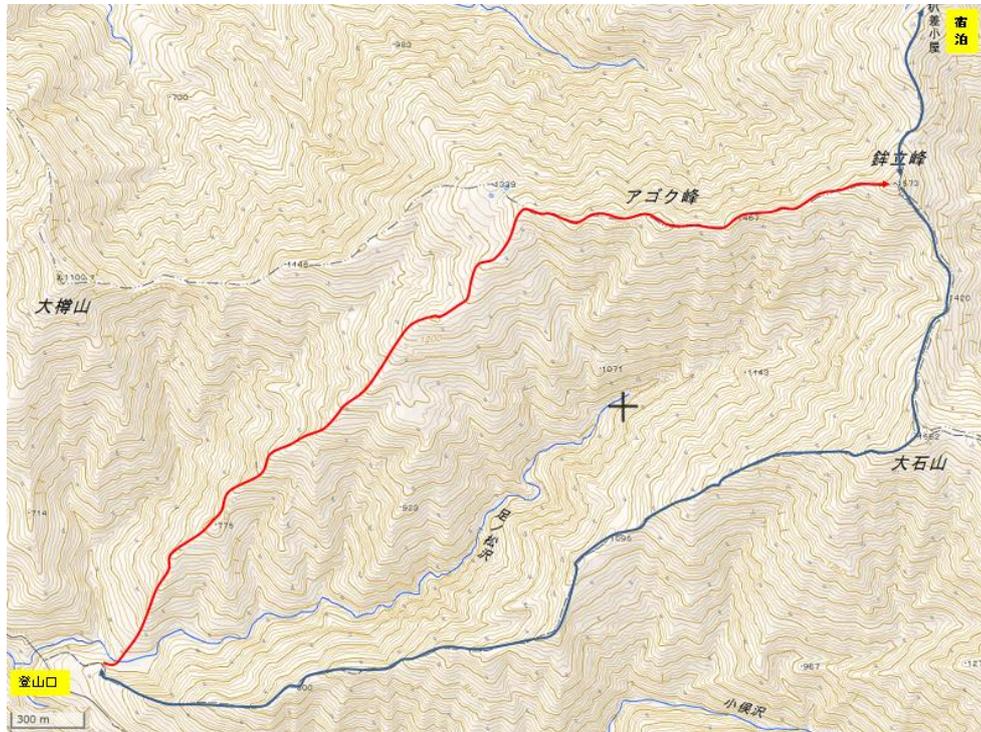


飯豊連峰 アゴク峰～鉾立峰

- 【場 所】 飯豊 奥胎内ヒュッテ～アゴク峰南西尾根～アゴク尾根～鉾立峰～足の松尾根
【行動日】 2018年6月15日(金)～16日(土)
【参加者】 CL 吉川、柘植(記録)



【行程】

- 6/15 (曇り) 奥胎内ヒュッテ 6:00—足の松尾根登山口 6:50—7:10 渡渉地点 7:30—アゴク尾根稜線 (1370m付近) 12:45—アゴク峰 14:50—鉾立峰 17:20—18:00 杵差小屋(泊)
6/16 (霧雨～曇) 杵差小屋 7:15—8:20 大石山—足の松尾根登山口 11:40—12:30 奥胎内ヒュッテ

【内容】

当初は2年越しで計画していた胎内尾根を考えていた。胎内川を渡る吊橋の老朽化が心配であったが、吉川さんから「去年の記録を見つけたので大丈夫みたいよ」のメールがきたが、その写真を見るといよいよ寿命到来としか思えず、お願いして予備案のアゴク尾根に変更してもらった。

6/15 アゴク尾根は上図のとおり、足の松尾根の登山口から足の松沢を渡渉して取付く。



幅広く流れの緩やかなところを渡渉する



対岸の尾根を適当なところから取付く

適当に登っていき、尾根筋がはっきりしてくると踏み跡も明瞭になってくる。この踏み跡は山菜採りのものという説もあるが、1100mくらいで不明瞭となり、やがて厳しい藪漕ぎとなってくる。途中で小さな雪田が2〜3個あり、そこが束の間の憩いの場で眺めもよい。



足の松尾根（手前）の向こうに胎内尾根



上部雪田からアゴク尾根のギザギザが見渡せる

5時間以上もかけてやっと1370m付近の稜線に出たが、稜線には期待した薄い踏み跡どころかますます事態は悪化して猛烈というレベルの藪漕ぎになってくる。からみあった灌木に蔓が加勢して、吉川さんは持参のストック1本を丸ごと失くし、柘植は3分割ストックの先端部を失った。予想外の難路に時間はどんどん過ぎていき、水も乏しくなってきたが、稜線上の雪田で雪を補充して急場をしのぐことができた。



うんざりする藪漕ぎ



アゴク峰が近づいてくる



左奥が杵差岳と GOAL の鉾立峰（手前はアゴク峰）



アゴク峰を越えると一時的に青空が広がる

アゴク峰から鉾立峰に連なるアゴク尾根は地形図で見るとほとんど上下のない平坦な稜線に見えるが、実際は数多くの20~30mくらいの小ピークのつながりだ。ただ猛烈な藪もアゴク峰を過ぎると高さがやや低くなり、悪質感も減って心持ち歩行速度が速まる。やがて目標の鉾立峰が見えてくると最後の頑張り。陽の短い秋ならとっくに日没だが、陽の長さに助けられ、17時すぎに鉾立峰に立つことができた。



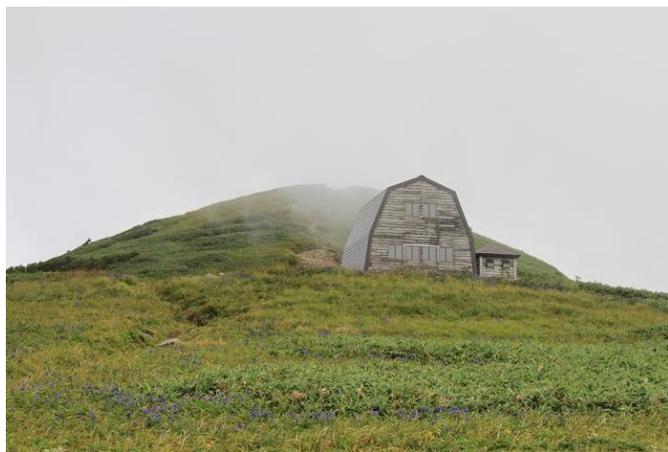
鉾立峰まであと少し、頑張り



鉾立峰の山頂直下の岩場を登る



残念ながらガスの中の鉾立峰の山頂



杵差小屋（背後は杵差岳山頂）ネットからの借用写真

鉾立峰からは一般登山道のありがたさを骨身にしみながら杵差小屋に向かう。杵差小屋には3パーティーの先客がいた。まだ水が出ておらず、雪融かしで想定外の時間とガスを使うが、安息の場で本日の疲れを癒すことができた。

6/16 朝から霧雨。すぐ横の杵差岳もパスしてすぐに下山にうつる。舞い戻った鉾立峰はそのまま通過して、足の松尾根分岐の大石山までノンストップでいく。天気は悪いが、稜線にはさまざまな可憐な花が咲いており、癒される。ここから足の松尾根の長い下りが始まる。この悪い天気の中を何パーティーか登ってくるが、明日の好天を期待してだろうか？そういえば昨日上空をヘリが舞っていたが、頼母木小屋など村上市で管理している小屋への荷揚げであったようだ。深いガスも下降の途中から切れ間がのぞくようになり、足の松沢の深い切れ込みと昨日登ったアゴク峰の南西尾根がよく見えてくる。足の松尾根の中間から下は姫子松が根っこを張り巡らし、岩場もあってのんびりとは下れない。昨日の疲れもあって足が張ってくるが、大石山から3時間ちょっとで昨日の渡渉地点への分岐に到着、もう登山口はすぐ下だ。昨日今日の山行を振り帰りながらのんびり歩いて無事奥胎内ヒュッテに戻る。帰りはクアハウス胎内で汗を流してから帰葉した。



シラネアオイ



イワウチワ



滝見場から足の松沢の大滝を見下ろす



足の松尾根下部のブナ林

アゴク尾根はリーダーの吉川さんはよく調べて厳しさを理解していたらしいが、柘植はやや安易に考えており、強烈なパンチをくらった印象だ。こういう山登りをちば山に入ってからずいぶん続けてきたが、そろそろ打ち止めかなと思うくらい今回は疲れました (^_^;

記録 : 柘植 秀樹